

# 山东大学

## 二〇一七年招收攻读硕士学位研究生入学考试试题

科目代码 359

科目名称 日语翻译基础

(请将所有试题答案写答题纸上, 写在试题上无效)

### 一、词汇翻译部分。(每小题 1 分, 共 10 分)

○汉译日

1. 菠萝
2. 打印机
3. 蚊香
4. 安全帽
5. 泡沫经济

○日译汉

6. ショールーム
7. シンポジウム
8. ギャラリー
9. 土壇場
10. マルチメディア

### 二、句子翻译部分。(每题 2 分, 共 20 分)

○汉译日

1. 如果你不能去改变世界, 那你就去适应周围的环境。

2. 看起来性格开朗、非常活跃的人, 有的时候也会患有忧郁症。
3. 很多事情只有当你失去它的时候才会发现它的可贵之处, 比如自由。
4. 也有喜欢打扮花枝招展的学生, 学习也很用功。
5. 金钱虽然不是一切, 但是很多事, 如果没有经济收入是无法去实现的。

○日译汉

6. この本は前後矛盾するよう感じられる場合もあるが、概して合理的な解釈を重んじており、健全な常識家としての彼の面目が良く出ている。
7. 他者を押しつけてまで自らを目立たせようとする出たがりのタイプの人もある。
8. 世の中に恐ろしいことは馬鹿が多いことよりも偽者の専門化が多いことである。
9. 夢がなくなり、驚きがなくなることは困ったことである。
10. 義理チョコでも喜んでもらうでしょう。

### 三、文章翻译部分 (每题 30 分, 共 120 分)

1. 佛教产生于古代印度, 但传入中国后, 经过长期演化, 佛教同中国儒家文化和道家文化融合发展, 最终形成了具有中国特色的佛教文化, 给中国人的宗教信仰、哲学观念、文化艺术、礼仪习俗等留下了深刻影响。中国唐代玄奘西行取经, 历经磨难, 体现的是中国人学习与外文化的坚韧精神。根据他的故事演绎的神话小说《西游记》, 我想大家都知道。中国人根据中华文化发展了佛教思想, 形成了独特的佛教理论, 而且使佛教从中国传播到了日本、韩国、东南亚等地。

2. 都市的道路旁，立着许许多多的行道树。由于车流量大，排出的废气多，树木也显得毫无生气，叶子的颜色也不太鲜绿。尽管如此，行道树仍能抚慰都市人的心灵。

九州某市在调查行道树的生态之后表示，约有半数的行道树受到白蚁的侵害。由于以木为生的白蚁所蚕食的是树心，即使看外表也不知道里面是否有白蚁。有时，也有被白蚁咬成中空的树木，因轻微的碰撞而倒地，压伤行人。

白蚁一般是栖住在人类的家里，但因近来木造的房子减少，他们只好移居到行道树。九州因为气候暖和，白蚁似乎特别容易繁殖。而其他地区的行道树，说不定也有白蚁栖住着。

行道树只要健康，就不会有白蚁寄生。据说，白蚁是从被车撞伤的伤口进入树中的。因此，白蚁虽说是行道树的天敌，但其真正的敌人却可以说是水泥房屋及汽车。然而，行道树却默默的伸展树枝，为行人服务。

3. ある若い女性が正当な理由もなく、ボスに首にされた。

正午、彼女は仕事場近くの噴水の脇のベンチに、意気消沈して座っていた。彼女は生活からまったく色が失われ、暗く光のないものになったように感じていた。そのとき、そう遠くないところで、男の子が彼女の後ろでハハハと笑っているのに気づき、興味をもって、「何で笑っているの」と男の子に聞いた。

「そのベンチの背は朝にペンキを塗ったばかりだよ。あなたが立ち上がったとき、背中がどんだか、見てみたいな」男の子は満面に得意そうな表情を浮かべて言った。

若い女性は一瞬頭が真っ白になったが、すぐにこのように思い至った。以前のあの薄情な同僚たちも、この子供と同じように私の後ろに隠れて、私の失敗や落胆を覗き見ていたのだろうか。私は彼らの思惑通りには絶対にならない。私は自分の気概や尊厳を絶対になくさない。

彼女はしばらく考えてから、男の子に向かって前を指差して言った。「あっちを見てごらん。尻を揚げている人がたくさんいるよ」男の子がだまされたと知り、怒って振り向いたとき、彼女はすでに外套を脱ぎ捨て、手に持っていた。彼女が着ている卵色の毛糸のセーターが、彼女をととても若くきれいに見せていた。子供は手をふり、ぶつぶつと文句をつぶやきながら、がっかりして去っていった。

生活の中で失望はどこにも転がっている。本当に、あの乾いていないペンキが塗られたベンチのように、不意にあなたを苦しめる。しかし、もう座ってしまっているならば、がっかりしないことだ。「突然のことにも驚かず、理不尽なことにも怒らない」という心がまえでこれに向き合い、脆弱な外套を脱ぎ捨てれば、あなたの新たな生活は始まったばかりだということを発見できるだろう。

4. 弱い立場にある労働者の権利を脅かすのか、能力の高いエリートに自由を与えるのか。必要のなくなった従業員を解雇しやすくするのか、よりよい職場を求めるやり手社員が転職しやすくするのか。考える角度によって正反対にも見える議論である。

安倍政権の成長戦略のひとつとして、雇用に関するルールを特定の地域に限って緩めようという話が進んでいる。たとえばいま企業は簡単には社員をクビにできない。裁判になれば、その解雇が正当かどうか、様々な側面から検討される。

この面倒をなくすのだという。どんなときに解雇できるかについて明確な契約を会社と働き手があらかじめ交わす。労使でもめて裁判になっても契約が盾になる。会社に都合の良さそうな仕組みだ。一定以上の年収の社員は「残業代ゼロ」でも可とするという案も蒸し返された。

この「特区」構想には当然ながら反対論が多い。政府内でも田村厚労相は「労働者の保護」という点から疑問を投げかける。憲法による基本的人権の保障が「特区の中では薄らぐ」と。連合も、不当な解雇が横行するとして断固反対だ。

特区の作業グループはきのう、新ルールの対象になるのは弁護士や公認会計士、あるいは博士号の持ち主などに限ると言い出した。要は外資やベンチャーでばりばりと働く高給取りの話なのだ、と。残業代ゼロの方は引っ込めてしまった。

批判や抵抗に気を使ったのだろうか。とはいえ強者のルールがいつか弱者に及ばないとも限らない。